

# 第55回 九州保育事業研究大会

---

## 宮崎大会



大会宣言 (2007.7.13)

---

分科会報告 (2007.7.12)

---

### 第1分科会

テーマ：子供の育ちを保障する

### 第2分科会

テーマ：子育てライフを支援する

### 第3分科会

テーマ：多様な連携と協働をつくる

### 第4分科会

テーマ：子育て文化を育む

### 第5分科会

テーマ：子育て・子育てを支援する仕組みをつくる

### 第6分科会

テーマ：保育協議会の組織を強化する

---

大会写真の記録

---

### ギャラリー 1

7月11日 準備風景・運営委員会

### ギャラリー 2

7月12日 分会会1

### ギャラリー 3

7月12日 分科会2

### ギャラリー 4

7月12日 保育士会セミナー

### ギャラリー 5

7月13日 全体会

---

大会パンフレット(PDF)

## 大会宣言



大会ホーム

### 大会宣言

第55回九州保育事業研究大会を『神話のふるさと』宮崎の地で、二日間にわたり開催いたしました。

「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして」をテーマに、九州各県の保育関係者1,400余名が集い、活発な研究討議を行いました。

平成15年に制定された次世代育成支援対策推進法に基づき、自治体をはじめ企業等のさまざまな分野で、その目的達成に向けて子育て支援が推進されています。また、平成19年2月には、少子化対策推進会議の後継組織として「子どもと家族を応援する日本」重点戦略検討会議が設立され、具体的な少子化対策として、社会全体で子どもと子育て家庭を支援する取り組みが優先課題に盛り込まれました。

このような国を挙げての取り組みに対し、子育て支援の中核である保育所の役割の大きさを改めて確信いたしました。しかしその一方で、規制改革や地方分権の流れのなかで、保育や子育て支援の分野に直接契約や直接補助方式などの競争や市場原理の導入を図ろうとする動きも強まり、一人ひとりの子どもの最善の利益の確保が守られるかが懸念されます。

こうした状況のなか、6年ぶりに保育所保育指針の告示化にむけた改定検討もすすめられています。認定こども園が全国展開されましたが、子育て文化の再構築と共に、新しい保育所の機能や役割を明らかにしていく必要があるといえます。

私たちは、改めて児童福祉施設としての保育所の使命をみずから厳しく問うとともに、子どもの健全な育ちを保障する保育施設として絶えず自己研鑽に努め、誇りをもって「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会になるよう保育所から発信していく」ことを宣言します。

平成19年7月13日

第55回 九州保育事業研究大会

大会ホーム

第1分科会・報告



大会ホーム 第2分科会

テーマ：子供の育ちを保障する

1. 個別保育計画への取り組み
2. 気になる子どもの保育の充実
3. 職場内研修の充実による職員の資質向上
4. 年齢別保育・異年齢保育の実践の充実

座長

佐賀県 ことじ保育園  
宮崎県 こばと保育園

助言者

熊本県 桜山保育園  
宮崎県 宮崎医療管理専門学校

幹事

宮崎県 どんぐり保育園

会場係

宮崎県 山陰保育園

記録

宮崎県 ひまわり保育園  
宮崎県 栗須保育園

発表趣旨

1. 福岡県 三ツ葉保育園

保護者の就労形態やライフスタイルの多様化から、健全な生活や健やかな育ちが軽んじられる風潮が懸念されます。

保育士と家庭が一体となったエピソード記録を整えることにより保護者が生活リズムについて意識するようになります。そして、生活リズムが整うことで気になる状況等が改善され、自主的な活動に繋がることが考えられます。

2. 長崎県 松葉保育園

気になる子が増えている現在、保育者に専門性が要求されます。早期発見し最善の対応による支援とはどうあればいいのかも求められます。

その子の気になる姿を個性として認められるような保育計画や職員の連携、そして保護者に寄り添うことが重要となります。気になる姿が受け入れやすい社会、生きやすい社会となりたいものです。

### 3. 鹿児島県 あすなろ保育園

4歳児26人中障害児4人。少人数の活動（バナナチーム）を取り入れる事で精神面の大きな成長が見られます。しかし、それぞれが抱えている問題が異なる為、壁にぶつかり、夜遅くまで話し合いました。

今、新たな問題も出てきているが少しずつ集団の中で自分の居場所を見つけ確実に世界が広がっています。一人ひとりの気持ちに寄り添って歩いていきたいです。

#### 討議内容

参加人数が548名となり、グループ討議や会場からの質問が困難と思われたので、事前に質問用紙を配布した。

「子どもの育ちを保障する」では、生活リズムの乱れから遊びに意欲が見られない子ども達への保育の手段として微細脳運動を刺激する質問が見られた。又、保護者へのアンケートへの質問も出た。

「話し合うことの大切さ」では、障害のある子（バナナチーム）健常者集団を区別した保育をする事に対する質問が寄せられた。バナナチームの保護者がクラス懇談会で自分の気持ちを示す事により、良い方向へ向かってきたことが報告された。

「せんせい、ぼくをみて」では、気になる子ども達の保育についての質問が見られた。周りの人々がその子の姿を個性として全てを受け止め、視覚的情報で見通しを持たせる保育の大切さを述べられた。

助言者の助言は、全国保育士会倫理綱領の前文やあるがままを描く「エピソード入門」の紹介、保育士基準の見直しの必要性について述べられた。

第2分科会・報告



第1分科会 大会ホーム 第3分科会

テーマ：子育てライフを支援する

5. 子育て支援の拠点としての機能の充実
6. 子育て家庭への支援の充実
7. 保護者の多様なニーズへの対応

座長

- 熊本県 つるまる保育園
- 宮崎県 梅野保育園

助言者

- 鹿児島県 高山保育園
- 宮崎県 ファミリーサポートセンター子育て支援専門相談員

幹事

- 宮崎県 なるたき保育園

会場係

- 宮崎県 伊勢ヶ浜保育園

記録

- 宮崎県 ひまわり保育園
- 宮崎県 正念寺保育園

発表趣旨

1. 佐賀県 市立保育所 白鳩園

子どもたちを安心して産み、育てられる環境づくりを目的に、平成8年に保育所における子育て支援が始まりました。現在、自園において、平日「園庭開放」を行い、毎週火曜日を「遊びの広場」としてたくさんの親子に参加いただいています。

子育て家庭への働きかけとして、民生児童委員、母子保健推進委員との連携を図りネットワーク作りも積極的にとりこんでいます。

2. 大分県 裏川保育所

子どもたちの健全な育ちを援助していくため全職員で研鑽を深め、保育所を利用する子どもや保護者だけでなく家庭での子育てをしている保護者のニーズにも積極的に応え、子育てを楽しみやすいと思えるような支援に取り組んでいます。

今後とも地域の中で親子が孤立しないようにネットワークを広げ、保育所が子育て支援の拠点となるようにしてまいります。

### 3. 沖縄県 港川保育園

地域での子育て力が弱まりつつある昨今、人と人とのつながりを大切にしたいという思いから、小中学生のボランティアを受け入れています。さまざまな交流により、園児、参加者、保護者そして園との間に絆が生まれました。

さまざまな機関と連携し、地域性を生かした取り組みや絆づくり、絆を強める場としての園の役割を大切に地域と関わっていきたいと思います。

#### 討議内容

参加人数の都合上、質問用紙を配布し、質疑応答を行いました。3園とも地域ネットワークを生かしながらの子育て支援活動に取り組まれていました。その中で外部からの受け入れということで、「感染症」や「安全面」についての質問が多く寄せられました。

親育ての難しさについての質問もありました。助言者からのアドバイスとして、今の親世代は、子どもが生まれ、初めて自分の思い通りにならないことに直面し、とまどい、困っています。初期対応のまずさが尾を引くので、支援のあり方として、寄り添い一緒に考える事が大切です。

また、地域の社会資源を知っておくことがネットワーク作りにとっても重要になってきます。それには、公私の別なく共通理念を持って取り組み、地域に働きかけていくことが必要です。

子どもを育てることは、「すばらしい、楽しいと思えるような子育て支援が求められている。」との助言をいただきました。

第3分科会・報告



第2分科会 大会ホーム 第4分科会

テーマ：多様な連携と協働をつくる

- 8. 児童虐待防止への取り組み
- 9. 学校との連携の充実

座長

沖縄県 コスモス保育園  
宮崎県 飛江田保育園

助言者

大分県 すがお保育園  
宮崎県 宮崎県教育委員会 学校政策課就学前教育・文化担当

幹事

宮崎県 つくしんぼ保育園

会場係

宮崎県 ひがし保育園

記録

宮崎県 なるたき保育園  
宮崎県 しいの実保育園

発表趣旨

- 1. 長崎県 放光保育園

「人との関わり」の中で「主体的に活動できる子」を目標とし、保育士、教師との関わり、友達との関わり、児童を含めた地域の人との関わりに焦点をあてて取り組んできました。連携を進めていく上で、教育の進め方の相互理解ができ、新入児、保護者、保育園の不安を取り除く事ができ親しみを持つようになりました。

今後も保育が教育にスムーズにつながっていくように柱を作り、交流を進めていきたいと思えます。

- 2. 熊本県 計石保育園

目指す子ども像「はかりいし」の目標をもとに「生活習慣育成部」「交流活動部」「家庭・地域連携部」の3つの部を編成してきました。成果として、元気に挨拶したり、言葉使いに気をつける姿が見られるようになったり等、教師・保育士が互いに保育・教育を見つめ直す一助

となりました。

家庭・地域の意見を把握しながらさらに進めていく必要があると思っています。

### 3. 宮崎県 北俣保育所

地域性を生かし町ぐるみで、幼保小連絡協議会を立ち上げ、担当者会、合同研修会など計画的に実施しながら、交流や連携が活発に行われています。

活動を通して学校の生徒、先生方とも顔見知りとなり、入学への不安より期待の方が膨らんでいるようです。

保育士と教師も情報交換する中で「気になる子」の入学の際スムーズな対応がなされ、安心して入学させることができました。これからも連携を続けていき、子どもの成長を支援していきたいと思っています。

#### 討議内容

保育所は、様々な機関・組織・団体や地域が連携・協働して子育て支援に取り組むための中心的存在として役割を果たしています。

これまでも保・小連携の必要性が幾度なく言われ、各地で実践が行われてきました。しかし、必ずしも充実したものではなかったと思います。小学校主導型の交流でなく、自分達から外へ出て行き、保・小の職員が気軽に交流ができ、お互いに無理のない形で実現し、子ども達の実態を把握する必要があります。

保育園から小学校へ上がったなら終わりではなく、どう連携を保つかを慎重に考え「その子がその子らしくあるために」目指す子ども像をしっかり持って、目標を設定し取り組んでいかなければならないと感じました。

また、子育て不安や児童虐待への対応については、早期発見する意識が必要です。疑われるときは、  
通報しなければならない義務があり、その報告が義務付けられています。

第4分科会・報告



第3分科会 大会ホーム 第5分科会

テーマ：子育て文化を育む

- 10. 保育所ですすめる食育
- 11. 地域に子育て文化を築く

座長

福岡県 星野保育所  
宮崎県 杉の子保育園

助言者

長崎県 星の子保育園  
白鷗大学 教授

幹事

宮崎県 南さくら保育園

会場係

宮崎県 日章保育園

記録

宮崎県 みやこ保育園  
宮崎県 加久藤保育園

発表趣旨

1. 佐賀県 大川内保育園

地域の特産品と人と人とのふれあいの中から生まれる食文化などを日常の保育の中に展開され子どものあらゆる面からの成長（心身体）を地域の方と共に身守られておられる事を発表されました。

講師より子ども一人ひとりの育ちについて現場の先生方は誠心誠意をもって送り出していますか？と会場へ疑問を投げかけられました。

2. 鹿児島県 希望ヶ丘保育園

食育を通じての年間目標及び計画を基にして職員間の連携を密にし、子ども一人ひとりに則した食事指導保護者への呼びかけなど展開されておられる事を発表されました。

講師より保育の質について現場の保育士一人ひとりがどのようにとらえ関わるかにより今後の子どもを

取り巻く環境づくり、人間育成に深く影響してくるのではないかと唱えられました。

### 3. 沖縄県 あげぼの保育園

看護師としての専門的なデータを出されて朝食の大切さと睡眠のリズムのアンケートをとられ、心と身体の成長にどう影響してくるかの発表をされました。

講師より数字に表された研究のまとめ方はわかりやすいが、そこに保育園がもちそなえている知恵及び技術が合わさった時に、相乗効果としてより生きてくるのではないかと説かれました。

#### 討議内容

10名程度のグループにわかれて「保育所で進める食育と地域に子育て文化を築く」と言うテーマで討議して頂きました。

各グループごとの発表の中で、野菜栽培をされていて食材として給食に用いられることが多く、中にはゴミをリサイクルしている園もありました。

又、朝ごはんをとらずに食べ物を持ってくる子への関わりに悩んでおられる園へ助言者より食べさせないで過ごさせるより食べさせた方が良いという助言があり、食事をさせた事によりその子自身がその一日をどのように過ごすことができたのかをまず親に明確に伝える事も大切と話されました。

助言者より、まず食育の目標として、子供の自律と自尊心を育てることが大切であり子供の育ちをとらえつつ家庭と保育士とが連携して食べる力を育むように勤める事が重点となると言われました。最後に「食は人を作り、人は文化を作る」この事を忘れないで明日からの保育に自分の園独自の食育をどう進めていくかを話し合われてみてくださいと提言されました。

第5分科会・報告

第4分科会 大会ホーム 第6分科会

テーマ：子育て・子育てを支援する仕組みをつくる

- 1 2. 公立保育所の使命と地域社会での役割
- 1 3. 保育所機能を生かした新たな子育て支援活動

座長

大分県 若竹保育園  
宮崎県 南俣保育所

助言者

沖縄県 豊見城市立平良保育所  
宮崎県 ひかり学園

幹事

宮崎県 福島保育所

会場係

宮崎県 草川保育園

記録

宮崎県 恒富保育所  
宮崎県 田原へき地保育園

発表趣旨

1. 福岡県 清水保育所

保護者と共に子育てを考える取り組みとして子どもの成長発展の道筋や具体的な関わり方を諸々の教材を活用して発信しています。

同和保育や配慮を必要とする子どもの保育の充実にも努めています。

園庭開放、保育出前講座等地域の子育て支援活動を行い、関係機関との連携を図ると共に保育士の専門性を生かし、子育ての拠点にしたいと思えます。

2. 長崎県 山陰保育園 子育て支援センター

(長崎県保育所機能を生かした新たな子育て支援活動)

子育て中の親がどのような悩みや不安を抱えているかのアンケートをとり、集計を基に座談会を開き結果を通信誌で知らせています。

又、活動に対する感想をまとめて「こころの声」という小冊誌にして配布し喜ばれていま

す。

お互いの顔を見て話す心の通いあう温かい声が必要であり、一方通行にならないよう共に悩み、考え心に寄り添っていく支援が大切です。

### 3. 熊本県 第一幼稚園

一人ひとりの子どもがお互いを認め合い、受け止め会おうとする保育を大切にしています。

配慮が必要な子どもを始め一人ひとり日々と変化していく中、保育士の役割、責任は重要となっています。

子どもたちが安心して「ほいくえんはたのしい」と思える園となるために保育内容をどれだけ子どもの視点に立って考え展開させているかを園全体でとりくんでいます。

#### 午前、発表後の討議（助言者の助言）

発表の中にて実践の継続性、安定性、発展性の大切さが伝えられました。

親への一方的な発言をせず、親を巻き込んだ受診、そして次へのアクションへと繋げていく活動の大切さを再確認することができました。

#### 午後、各グループの報告（助言者の助言）

たくさんの情報を共有することができました。全体的に保育士の専門性が活かされていると感じられました。ものごとに気付く力、愛情をもつての受容が感じられ保護者に対して頭でっかちでなく心でっかちで対応されていると思われました。

日々の実践の積み重ねによって親が成長でき、子どもが落ち着いていく事も大事です。子どもへの思いを親へ伝えていく難しさもありますが、親の思いを受け止め工夫して努めていきたいものです。

又、今後の保育制度について、子どもの健やかな成長の願いをもって見守っていききたいものです。



## テーマ：保育協議会の組織を強化する

### 14. 保育組織の次世代を担う人材の育成

#### 座長

長崎県 かき道ピノキオ保育園  
宮崎県 どうめき第2保育園

#### 助言者

佐賀県 くるみ保育園（佐賀県保育協議会 会長）  
全国保育協議会 児童福祉部 部長

#### 幹事

宮崎県 のぞみ保育園

#### 会場係

宮崎県 アソカ保育園

#### 記録

宮崎県 花ヶ島北保育園  
宮崎県 ひまわり保育園

#### 発表趣旨

##### 1. 大分県 向洋保育園

大分県保育連合会で、定期的に研修会を行っています。

保育団体が行う研修が、認可保育園の保育の質を左右している事を全員が理解し、より積極的に自園以外の保育を知り、組織の価値を温めていってほしいです。

##### 2. 宮崎県 真幸保育園

宮崎県保育三団体一本化に伴う青年部の一本化の流れを説明して頂きました。その中で設立の目的主旨に時間をかけて検討したことが青年部の価値を高めています。

会の中の役割を果たしても組織の一員であるという意識が大切です。

今後、親団体との連携を青年部としてどう取り組むかが課題となっています。

##### 3. 鹿児島県 二葉保育園

全国保育協議会九州ブロック人材養成支援事業で行った3つの研修を通して「若さを活かし

た感覚の大切さ」「新しい時代にある保育所の姿」を議論できる青年部を目指します。

保育バウチャー研修の反響は大きく、親団体との調整が必要な場面がありました。青年部の全員のアンケートを通して、現状の保育所での危機感を知ることができました。

#### 討議内容

午前中保育団体青年部3名の方より「人材育成」「研修」2つの視点で発表をして頂きました。

午後からは意見発表者の視点と、助言者からの意見を基にグループ討議を行いました。

「全ての家庭を援助していくと言う在宅家庭への応援を保育団体としてどう考えていくか、国や自治体との関係について等、助言者の笹尾先生から問題提議がありました。

各グループから意見発表がありました。組織として社会にPRする事、3団体1本化の必要性があるのか、社会の流れの中で保育所がどう変わっていくのか等がありました。

最後に、助言者の田中先生が現場からの意見として青年部の育成、地域議員とのつながりを強化することについてお話がありました。

ギャラリー 1



大会ホーム ギャラリー2

7月11日 前日準備風景



7月11日 運営委員会



大会ホーム ギャラリー2

ギャラリー 2



ギャラリー1 大会ホーム ギャラリー3

7月12日 分科会 1 (第1~第3分科会)



ギャラリー1 大会ホーム ギャラリー3

ギャラリー 3



ギャラリー2 大会ホーム ギャラリー4

7月12日 分科会 2 (第4~第6分科会)



ギャラリー2 大会ホーム ギャラリー4

第55回 九州保育事業研究大会

ギャラリー 4



ギャラリー3 大会ホーム ギャラリー5

7月12日 保育士会セミナー



ギャラリー3 大会ホーム ギャラリー5

〒880-0007宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉総合センター内  
社団法人 宮崎県保育連盟 事務局  
TEL : 0985-28-5835 FAX : 0985-28-5989

Copyright (C) M-Hoiku 2007 All rights reserved. Since 2007/01/01

ギャラリー5



ギャラリー4 大会ホーム

7月13日 全体会



ギャラリー4 大会ホーム

第55回  
九州保育事業  
研究大会  
宮崎大会

平成19年7月12日・13日

場所

ワールドコンベンションセンター  
シェラトンサミットホール

